国際保全パートナーズ
UAPACAA
Unified Action for Promoting Animal Conservation in Asia and Africa
Famille Hayama 202
1461-136 Nagae, Hayama-machi, Miura-gun, Kanagawa 240-0113, Japan
Phone: +81(90)4010-5906　Email；admin@uapacaa.org
https://www.uapacaa.org/

２０２５　年　度　上　半　期（2025年８月～2026年１月）事　業　報　告

法人の名称　ＮＰＯ法人ＵＡＰＡＣＡＡ国際保全パートナーズ

＜ハイライト＞

・地球環境基金「ひろげる助成」コンゴ民主共和国（DRC）Mbali地区の持続可能な開発２年目。「ホロホロチョウの蓄養」は、８村中、順調に飼育を進めていた２村で、１月からヒナが生まれ始めた。「プロポリス養蜂導入」は前段階のハチミツ養蜂再開から１年経ち、４村で収穫可能なコロニーが育った。

・キンシャサ大学とMbaliの持続可能な農村開発共同研究の覚書を結び、１月にPascal助手が現地踏査を敢行。各養蜂班、蓄養班の進捗や課題を整理し、ワークショップを開催するなど現場活動に貢献した。

・ロベケ国立公園の夏のエコツアーは、バンツーとピグミーの人たちの伝統文化祭りの見学など、野生動物観察以外のイベントもある盛りだくさんな内容となった。ただ８月の小乾季の森では、水分を求めてマルミミゾウがプチ・サバンナ周辺に留まり、ゾウを避けてゴリラなど他の動物が減る傾向があった。

・2025年11月29日が有効期限の、認定NPO法人資格を更新した。８月27日に申請し、11月５日に事務所で実態確認調査、11月11日に承認された（有効期間は2025年11月30日～2030年11月29日）。

・2025年10月20日に９期第１回オンライン理事会を開催し、理事６人の出席（１名は書面表決）を得て成立。２０２４年度（2024年８月～2025年７月）事業報告と決算に承認を得て通常総会に上程した。役員任期満了（10月21日）に伴い総会で改選となるため、役員候補を選任した。２名の理事が任期満了をもって退任を希望し、他の役員は重任の内諾があったため、理事４名監事１名の候補を上程した。

・理事会の表決に従い、10月29日にハイブリッドで第９期通常総会を開催し、正会員15人のうち14人（オンライン出席３名、書面表決７名）の賛成を得て２０２４年度事業報告・決算報告が承認された。

・新役員候補も全員選任され、続けて新理事４名による理事会（オンライン出席２名）を開催し、全員の賛成を得て岡安が代表理事に選定された。２年間代表権を持つ理事として法務局に変更登記を行った。

＜事業活動方針にかかる報告（2025年８月～2026年１月分）＞

<u>カメルーン、ブータン、およびコンゴ民主共和国（DRC）の連携先と自然保護プロジェクトを推進する。</u>

「２　事業内容」に沿って、以下に報告する。

①　自然保護におけるポスト・コロナ事業

・感染症対策にも役立つプロポリス養蜂の、アフリカの現場への導入に向けた施策；出張で現状確認

➢ カメルーンのロベケ国立公園周辺コミュニティの養蜂業整備

✧ 2024年７月に面会したDchang大学のDr Pintaに養蜂指導を依頼すると、当時のNGAMADJEU助手（Centre Polyvalent de Formation de Mbouo）を薦められ、９月23日～10月１日現地視察を行った。

✧ 11月〆切のJICA草の根支援事業に、４コミュニティにハチミツ養蜂の導入を行う提案書を申請した。

✧ カカオ栽培に伴う農薬（ラウンドアップ）使用が広がり、管理（不使用）の徹底が緊急に求められる。

➢ DRCのMbali地区では、WWF DRCのコミュニティ支援ですでに養蜂業が導入されている

✧ 10月の現地視察では、Mpelu村（３箱）Nkala村、Embirima村、Mbe村、Ndoua村（各４箱）Bodzuna村（３箱）と、６村でさらにコロニーを増やしたが、Nko村とMakaa村は不成功だった。

✧ 7～8月に見込まれた収穫は、養蜂班が採蜜のタイミングを計れず見送られた。1月の踏査では、既にハチミツが消費し尽されていた箱も多く（Mpelu村、Embirima村）、収穫時期の見極めが課題である。
✧ 1月にはMpelu村、Embirima村が定着箱を増やし、またNko村とMakaa村もコロニーを確立し始めたが、他方でアリの被害で離脱を繰り返す養蜂箱も多く、金属製脚（支柱）設置が喫緊の課題である。

② アフリカ熱帯雨林の保全と野生動物保護支援に関する事業

ア カメルーン共和国南東部州の大型類人猿と生物多様性の保全活動

・7月末～8月中旬に、年末年始と同日程のエコツアー一般募集。受入体制を勘案し支援者向けとしたが、希望者の都合が合わず参加は1人だった。現地滞在7月30日～8月7日の間、プチ・サバンナでマルミミゾウ家族、ジャンギでヨウムとアオバト、バッファロー等観察できたが、ゴリラは林道で1度すれ違うに留まった。円安進行で全般に経費がかさみ、特にヤウンデ - ロベケ往復交通費が大幅に値上がりした。
・Djembeに繋がる林道（約60km）では、10月初めまでの約2.5カ月間はまだ工事の影響が残り、沿道での直接観察はなかったが、ゾウやゴリラの痕跡は多かった。また24年6月に確認した新設の観察台でも、9月にインターンがゴリラを観察し、動物の分布が北に寄っていた模様。季節移動か工事の影響かなどの原因を探るモニタリングが必要だが、円安差損も大きく、当法人の活動費予算からは支援は不可能である。
・中断していた、5年に1度の国立公園生物多様性広域調査が敢行され、結果は2026年に出版予定である。
・インターン2人の受入は予定通りに進み、各々の得意分野を活かして（自然教室でのゾウの足型作成と、人獣共通感染症3種の予防のための初動対応基本情報収集）現地活動に貢献した。

イ コンゴ民主共和国（DRC）マイ・ンドンベ州ボロボ郡におけるボノボの保護活動

・ ハイライトにあるように、キンシャサ大学農業経済学部のCEATILD（地域開発イニシアティブのための研究・技術支援センター；所長Patrick MAFWILA教授）とMbaliの農村開発共同研究の覚書を交わし、合わせて現場活動支援の養蜂カレンダー作成やハチミツ成分分析に係る最初の委託契約を結んだ。
・ 政情不安で中断していた現地NPO法人設立支援を、CEATILD関係者の参画で再開した。
・ ホロホロチョウの蓄養は繁殖シーズンに入ってもペアの調達が難航し、また卵はMbali地区までの運搬が問題で導入できていない。2村でかえったヒナを地道に増やすしかないが、給餌に課題があり、さらに獣害なども発生し、Mbali独特の問題を経験を積みながら解決していく必要がある。

③ 南アジアの亜熱帯林保全と野生動物保護支援に関する事業

ア ブータンの生物多様性保全、特に南部国境地帯を生息地とするアジアゾウ保護

・ ブータンの観光政策が変わり、WWFとの協働も日本からの参画が難しい内容で具体化していない。

<u>アフリカやアジアの生物多様性保全に関する情報発信を行い、国際保全活動の普及啓発に貢献する。</u>

・ 7月のHPサブスク更新時に、新料金体系への移行に失敗し、一時閉鎖を余儀なくされた。他社も検討したが、HP作成機能と決済・メルマガ発行機能がまとめて管理可能なものがなく、契約を継続した。
・ インターンと共にロベケ滞在中だった8月12日の「世界ゾウの日」は、ロベケ国立公園のイベントをFacebookライブで、また9月24日の「世界ゴリラの日」にはZoomとYouTubeで現地報告を配信。
・ アシスタント（アフリカ人類学）とインターン2人（獣医・芸術系）の定期ブログ配信を開始した。

＜その他の事業＞

① 書籍の出版・販売：海外出張の対応に時間を取られるため、今年度も行っていない。

※ 認定更新実態確認調査の際に、第7期の決算書の収入金額に誤りが見つかり、監事の発議による「第1回みなし臨時総会」を開催し、12月12日に修正が完了した。
※ 上半期予算進捗（2025年8月～2026年1月）に関して、中間決算報告書を添付する。 以上

国際保全パートナーズ
UAPACAA
Unified Action for Promoting Animal Conservation in Asia and Africa
Famille Hayama 202
1461-136 Nagae, Hayama-machi, Miura-gun, Kanagawa 240-0113, Japan
Phone: +81(90)4010-5906　Email：admin@uapacaa.org
https://www.uapacaa.org/

２０２５　年　度　下　半　期（2026年2月～2026年7月）事　業　報　告

法人の名称　ＮＰＯ法人ＵＡＰＡＣＡＡ国際保全パートナーズ

＜ハイライト＞

・コンゴ民主共和国（DRC）Mbali 地区の持続可能な農村開発事業に対する、地球環境基金「ひろげる助成」（3年間）の3年目は、680万円で採択された。「ボノボ・エコツアー復興」は政情不安のため引き続きペンディングせざるを得ないが、「ホロホロチョウの蓄養」と「プロポリス養蜂の導入」の仕上げを目指す。
・2025年クラファンその他の寄附金を資金にWWFカメルーンと交わした、2026年3月末までのロベケ国立公園ポン・カッセのガードポスト運営支援を6月末まで延長した。2年続けて公園内密猟ゼロを達成。
・7月21日にZoom理事会が理事4人出席で成立し、２０２６年度（2026年8月～2027年7月）事業計画と予算案を臨時総会に上程した。続くみなし臨時総会にて正会員全員の賛成で承認された（7月31日）。

＜事業活動方針にかかる報告（2026年2月～2026年7月分）＞

カメルーン、ブータン、およびコンゴ民主共和国（DRC）の連携先と自然保護プロジェクトを推進する。

「2　事業内容」に沿って、以下に報告する。

① 自然保護におけるポスト・コロナ対策事業

➢ カメルーン・ロベケ国立公園周辺コミュニティの養蜂業整備

✧ 2025年11月に提案書を提出したJICA草の根事業は、残念ながら不採択だった。同じテーマで3回不採択になると申請ができなくなるので、JFGE助成金、クラファン等の別の資金調達を検討する。

➢ DRC・Mbali地区の養蜂業整備

✧ キンシャサ大学 CEATILD（地域開発イニシアティブのための研究・技術支援センター：所長；農業経済科学部の Patrick Mafwila 教授）との研究協力覚書に基づき、Mbali 地区の養蜂振興基礎調査設計と、1月現地踏査で収穫したハチミツの成分分析を委託。3月末に第1回報告書を査収した。

✧ 6月段階では、追加も含め配布した養蜂箱のうち、Mpelu 村（5個/10個）、Nkala 村（全 10 個）、Embirima 村（7個/10個）、Mbe 村（8個/10個）、Ndowa 村（6個/10個）Bodzuna 村（全5個）、Makaa 村（2個/5個）と、全8村中7村でコロニー定着に成功した。8月からの採蜜が期待される。

✧ ただし、追加養蜂箱 5 個のコロニー定着が悪く、村からかなり遠い森に移設する必要が出ており、「女性が裏庭で手軽にできる」ハチミツ養蜂のコンセプト実現には条件が整わない可能性が出てきた。ハチ個体群の分布の偏り、減少、人の活動との競合など、より詳細に現状を把握する必要がある。

✧ もっとも経験豊富な Nlala 村養蜂班が、7月に一部、採蜜。他の養蜂箱も8月中に採蜜する計画を立て、CEATILD から Pascal ともう一人の助手、UAPACAA アシスタントの Jean が立ち会い予定。

② アフリカ熱帯雨林の保全と野生動物保護支援に関する事業

ア　カメルーン共和国南東部州の大型類人猿と生物多様性の保全活動

１．ロベケ国立公園の大型類人猿エコツーリズム振興支援

２．ロベケ国立公園生物多様性モニタリング

３．国際武装集団によるゾウ密猟対策への支援

・2 月の現地視察では、大乾季の最中ではあったが、ポン・カッセ～プチ・サバンナのジャングルの中でも35℃を超えるかつてない猛暑で、気候危機の影響が今後、植生にどう影響するのかが懸念された。
・プチ・サバンナの常駐モニタリングの効果が出始め、観察台に人がいても野生動物が逃げなくなってきた。
・プチ・サバンナへの観光客の訪問は、コンスタントに続いている。動物、特にゴリラの観察頻度が上がり、満足度が上昇しているという報告があった。村の若者のガイド養成を行い、リピーター獲得に繋げたい。
・アクティブな国立公園所長の努力で、公園内の主要林道、事務所のゲストハウス整備、感染症対策用のラボ建設など、ドイツの ODA を通じたインフラ整備が急ピッチで進んでいる。
・主要果実の結実（4 月～8 月）は今年も裏年で、ガンベーヤ、Ficus 以外はまとまった食物パッチにならなかった。2025 年の大規模生物多様性調査で、チンパンジー個体数が減っていた原因の一つかも知れない。
・国立公園中央を結ぶポン・カッセ、プチ・サバンナ、ジャンギの 3 カ所に、常駐ポストを開設しチームを派遣しているおかげで、UAPACAA パートナーズ担当地域では密猟の痕跡ゼロが継続している。
・2026 年 3 月～4 月は、助成金の会計〆と報告に時間を取られ、クラファン開始が 8 月に遅れこんだ。

イ　コンゴ民主共和国（DRC）マイ・ンドンベ州ボロボ郡におけるボノボの保護活動

２．ボノボ生息域に居住するコミュニティの地場産業開発を通じた生物多様性保全

・２．は引き続きホロホロチョウ繁殖ペアの確保に苦労したが、Bolobo の蓄養家から 11 月（7 ペア）、3 月（2ペア）、5月（7ペア）にある程度の数を仕入れられたため、8村の蓄養班に一通りの配布が完了した。
・ただし、蓄養を順調に進めた班が、逆に配布数が少ないという不公平が起きており、Makaa 村班、Nko 村班は必要数配布が終わっても繁殖に至らないなど、進捗に遅れが出ている。
・卵を仕入れ、孵化して育てる / 現地で野生卵を採集する などの代替手段は、それ自体に技術を要求され、また卵の孵化率が当初想定（80%）よりかなり低く（30%～40%）、安定的供給は難しいことが判明した。
・事前調査で、「他の蓄養種より繁殖が容易」「蓄養実績がある」などの理由からホロホロチョウを選んだが、粗放的農業を営む Mbali 地区に汎用性のある地場産業としては定着が難しい。ただし、成功班のポテンシャルは高く、難しい飼養技術も不要なので、今後の各班の自助努力次第で販売に結びつく余地はある。

③ 南アジアの亜熱帯林保全と野生動物保護支援に関する事業

ア　ブータンの生物多様性保全、特に南部国境地帯を生息地とするアジアゾウ保護

１．TraMCA ランドスケープにおける人とアジアゾウの衝突回避に向けた支援

・アジアゾウ保護に向けた大型プロジェクトは資金調達が難しく、今期も具体的活動は開始できなかった。

<u>アフリカやアジアの生物多様性保全に関する情報発信を行い、国際保全活動の普及啓発に貢献する。</u>

・6月から短時間勤務ながら、新しい広報アシスタントを採用した。NPO 業務や広報は未経験だが、動物好きな人の感覚で SNS 発信を担当してもらい、一般への訴求に繋げる可能性を探る。
・国際情勢の緊迫化、日本国内のアフリカを含む嫌外国意識の高まり等、慎重な情報発信が求められる状況も継続している。また AI 対策か、あらゆるアプリでセキュリティ管理が厳格化、業務に支障が出ている。

＜その他の事業＞

① 書籍の出版・販売

海外出張頻度・期間の大幅増大に伴い公益事業に時間が取られ、今年度も行わなかった。

以上